

佳作

「私のお母さんとお父さん」

兵庫県 姫路市立勝原小学校 五年 富岡 恵美

私のお母さんとお父さんはふつうに仕事もしているし、ふつうに生活もしている。なにより私と姉を産んで育ててくれた。

でも、お母さんとお父さんには手と足に障害をもった障害者です。

そのため、まわりからへんなめで見られたりもします。

でもあまり気には、していません。

しかし、私は小さいとき

「お母さんとお父さんがふつうの人だったらなあ。」

と、思う時もありました。

今は、あまり気にしていません。

お母さんとお父さんの笑顔を見てると、わすれられるようになったからです。

私のお母さんとお父さんは障害者のチームをもっています。目が見えない人、手が変形した人、足がわるい人、車いすの人、心ぞうがわるい人、のうがまひしている人、指が一本ない人などいろいろな人がいます。

その人たちもいろいろくふうをして野球をしています。

自分たちの病気に合わせて、バットをふるのも、ボールをとって投げるのも、みんなくふうをしています。

私のお父さんも右手が変形しているので、ふる時も、ほぼ左手だけでふっています。

とって投げる時も、左でとってグローブをぬぎ捨てて、左手で投げます。

そうゆうお父さんたちを見ているとそんけいします。

そうゆうお母さんお父さんでもなやみはあるそうです。

それは、やりたいことが自由にできないことだそうです。

ちようせんしたいことがあってもちようせんできないことが多いそうです。

私のお母さんとお父さんは、体が悪いことにはいし、くふうしているところもあればなやみもあるとゆうことです。

そんなこともありながら私と姉を育ててくれて、『ありがとう。』